

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 中央区立佃島 小学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
	児童・生徒の学力の課題
国 語	【4月】 ・自分の考えや意見の中心となるものを明確にすることや、読み手を意識した文章表現や文字制限などの条件に合わせて文章を書くことができる児童が少ない。 ・情報と情報を関連付けたり活用したりする力に課題がある。 【10月】 ・第4学年では、書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えて書くことに課題がある。 ・第5学年では、敬語の理解に課題がある。 ・第6学年では、自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にした文章や、相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にした文章を書くことに課題がある。
算数・数学	【4月】 ・「知識・技能」では、全学年の傾向として、できている子が多いが、「思考・判断・表現」に関しては、苦手意識が高い傾向にある。 ・自分の考えを式や図、言葉などを使って説明することが苦手である。 【10月】 ・第4～6学年において、図形の性質を基に、作図することに課題がある。 ・分度器、コンパスの活用技能に課題がある。
社 会	【4月】 ・観点別に見ると「知識・技能」と「主体的に学習に取り組む態度」が低い傾向にある。 ・複数の資料から必要なものを選んだり、複数の資料を関連付けたりする活動に苦手意識がある。 【10月】 第4学年では、「工場の仕事」についての資料の読み取りに課題がある 第5学年では、「自然災害からくらしを守る一水害」の基礎知識に課題がある。 第6学年では、「世界の中の国土」「日本の国土と人々のくらし」の基礎知識に課題がある。
理 科	【4月】 ・理科的な体験や経験はしていても、知識として身に付いていない。 ・楽しんで取り組んだ実験が、学習として定着するまでに時間を要する。 【10月】 ・第4学年では、「植物の育ち方」の基礎知識に課題がある。 ・第5学年では、「月と星」の学習に課題がある。 ・第6学年では、基礎知識で正答が低くなっている。また、実験結果を基に結論を導いたり、新たな問題を見出したりしたことを、表現することに課題がある。
英 語	【4月】 ・英語で話すことへの恥ずかしさや抵抗感がある児童が高学年を中心に多い。 ・英語の4つの技能(話す・聞く・読む・書く)において個人差が大きい。 【10月】 ・学習力サポートテストの結果においては、2問以外は全て目標値を上回っている。 ・アルファベットの小文字の読み(q)と、英作文のみ目標値を下回った。
体力向上	【4月】 ・「体育が好き」「体育がやや好き」といった肯定的に捉えている児童が、高学年では7割に満たない。 ・器械運動を始めとして、高学年を中心に取り組み度が低い。技のポイントおさえずに行ってしまう児童も多い。 【10月】 ・男女ともにボール投げの項目が全国平均を下回っている学年が多い。 ・女子においては、2年、5年が多くの種目で全国平均を下回っている

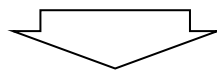
2 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	【4月】 ・自分の考えをもち、文章や対話で表現できる。 ・文章を書く機会を設けていく中で、書く力が高まる。 ・学習力サポートテスト(R8 4月実施)では、全実施学年で、区の平均との差を縮める。 【10月】 ・「令和8年度の学習力サポートテスト」の実施学年において、全ての問題で目標値と同程度か、目標値を上回るようにする。	・学級文庫や学校図書館を活用した読書活動を促進して、情報と情報との関係について理解し、要旨を捉えたり、要約したりする力が高まるようにする。 ・誰かに何を伝えるのかを明確にして話をしたり、文章を書いたりする経験を増やしていく。
算数・数学	【4月】 ・問いに対して複数の見方をし、自分でよりよい解決方法を導き出すことができる。 ・問題場面を図やグラフなどで表し、演算方法を考えることができる。 ・学習力サポートテスト(R8 4月実施)では、全実施学年で、区の平均との差を縮める。 【10月】 ・「令和8年度の学習力サポートテスト」の実施学年において、全ての問題で目標値と同程度か、目標値を上回るようにする。	・問題に対して複数の考え方を求めるように授業でも促していく。考えを説明する場面、協働的に考える場面を増やしていく。 ・問題の中に不要な数値を入れて出題したり、問題場面を図で表す活動を取り入れたりするなど、数量関係について考える場面を増やしていく。
社 会	【4月】 ・複数の資料から必要なものを選んだり、複数の資料を関連付けたりすることができる。 ・児童自身が問題意識をもって、主体的に学習に取り組むことができる。 ・学習力サポートテスト(R8 4月実施)では、全実施学年で、区の平均との差を縮める。 【10月】 ・「令和8年度の学習力サポートテスト」の実施学年において、全ての問題で目標値と同程度か、目標値を上回るようにする。	・複数の資料から必要なものを選んだり、複数の資料を関連付けたりする活動を多く取り入れる。 ・児童自身が問題意識をもって学習に取り組めるよう、疑問点を見出したり、問題に対して予想したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。
理 科	【4月】 ・理科的な体験や経験が知識として定着している。 ・学習力サポートテスト(R8 4月実施)では、全実施学年で、区の平均との差を縮める。 【10月】 ・「令和8年度の学習力サポートテスト」で、第4・5学年は、全ての問題で目標値と同程度か、目標値を上回るようにする。第6学年は、目標値と同程度か、目標値を上回る問題が9割に達するようにする。	・観察や実験の振り返りをノートやタブレットを用いて行った後に学級で共有して検証し、経験が知識として定着するように心がける。
英 語	【4月】 ・「話すこと」への抵抗感をなくす。 ・文字と音の関係を理解できるようにし、聞く、書く、読む、の3技能が高まる。 【10月】 ・「令和8年度の学習力サポートテスト」において、全ての問題で目標値を上回るようにする。	・習慣的に話す機会を授業のルーティーンにはめ込むことで、「毎時間必ず話す」という習慣づけをする。 ・ノートを使い、ALT は発したことばを書き取る練習を行なう。(聞く、書く、読むの育成) ・学年に応じてアルファベットの習得方法を工夫する。
体力向上	【4月】 ・自ら進んで体を動かし、運動に親しむことができる。 ・他者の動きのよさを感じ、実践することで、運動への楽しさを実感できる。 ・学校評価児童アンケートの「体力向上」の項目において、肯定的評価が70%を上回るようにする。 【10月】 ・全学年、全領域において、知識技能の習得ができるようにする。	・器械運動領域等、技能の高まりがあまり見られない。道具や場の工夫をするだけでなく、学年をまたいだ系統的な指導を行っていく。 ・技術向上への意識が弱い領域では、学習カードの充実を図る。 ・授業では、運動量の確保を行い特に低学年における運動経験を増やす。

個別最適な学びと協働的な学びの充実		
取組	・授業スタイルの段階を設定し、児童の実態に応じながら進めていく。 1学期:学習スタイルの定着 一斉指導(導入→一斉指導型の学習) 2学期:個別最適・協働的な学び「指導の個別化」(子どもの調整力の育成) 3学期:個別最適・協働的な学び「学習の個性化」	

探究的な学びの充実		
取組	・第3～6学年では、総合的な学習の時間において、一人一人が自分の興味・関心に基づいて課題を設定し、年間を通して探究する「My 研究」に取り組ませることで、課題を発見し、自ら考え判断し、学び続けていく力を育む。	

読解力の育成		
取組	・自分の読みと他者の読みを比較する、対話的な活動を取り入れる。 ・何文で書くか指定してまとめたり、要約したりする活動を取り入れ、文章の大意を捉える力を高める。	



3 取組結果の検証

	令和7年度の取組の成果	令和7年度の取組の課題と解決策
国 語		
算数・数学		
社 会		
理 科		
英 語		

体力向上		
------	--	--

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
成果と課題	

探究的な学びの充実	
成果と課題	

読解力の育成	
成果と課題	